

## はしき

漢文は、とても魅力的な教科である。その内容は興味津々、論旨も明快である。そして入試に於いては、短期間かつ少ない努力で得点源になる教科なのだ。

漢字ばかりが並んでいると、難解に感じる人もいるだろうが、漢文は、返り点に従って漢字と送り仮名を交えて読めば、それはもう純然たる日本語である。基本句形や文法がわからないという人は、最初に少しばかりの努力が必要だが、漢文で習得すべき基本句形はそれほど多くはない。

また、問題文も、読みにくい漢字には読み仮名が付き、難解な語には注が付く、などさまざまな配慮がなされている。つまり、多くの入試問題は、語句と句形の知識をもとに本文をすらすらと読むことができると、それなりの思考力があれば解けるように作られているのである。

漢文学習に必要なのは、「慣れること」である。一つは「基本句形に慣れる」こと、もう一つは、「漢文の読み方に慣れる」こと。それができれば、もう入試漢文はこわくない。

本書は、大学入学共通テストを含め、多くの大学で導入されているマーク式の問題に対応している。本書を活用して、ぜひ漢文を得点源にしてほしい。

基本句形を学習するためには、「らくらくマスター 漢文句形と単語」「漢文句形ドリルと演習」(ともに河合出版)があるので活用してほしい。

## 本書の使用法について

\*問題は第Ⅰ部・第Ⅱ部・第Ⅲ部で構成されている。

第Ⅰ部は、漢文の基本句形を確認するためのドリル問題である。

第Ⅱ部・第Ⅲ部は、実践的な演習問題である。易しい問題から徐々に難しい問題になるように配慮して配列してある。

第Ⅲ部には、大学入学共通テストを意識した、より実践的な予想問題を並べている。

\*まず、解答時間を設定し、その時間内で解くように努力しよう。慣れない人は、最初は20分〜30分程度かけてもよいだろう。慣れてきたら20分以内で解くようにしてみるとよい。

\*問題を解き終えた後、解答・配点を確認するだけで終わってはいけない。間違えた設問については必ず【設問解説】をよく読んで、解き方を確認しておくこと。同じタイプの問題を見たときに、同じ誤りを犯さないようにするためである。

\*問題を解いたときに、読み方・意味・解釈がわからなかった箇所は、【書き下し文】・【全文解釈】を見て確認すること。また、基本句形については、【解釈のポイント】の説明にも目を通して覚えることが必要である。

\*最後に、必ずしてもらいたいことがある。それは、本文の音読である。問題を解き終え、解説を確認した後、必ず本文を二度三度と声を出して読んでもらいたいのである。遠回りのように思えるかもしれないが、音読は漢文に慣れるための最善の道である。

## 解答の着眼点

入試漢文では、例年多種多様な問いが設けられている。その中で、書き下し文（句や文の読み）の問題、解釈問題、説明問題の三つが定番と言えるものである。そこで、これらの設問への着眼点をまとめておこう。

**\*書き下し文の問題（句形の知識が基本。）**

- (1) 句形や文型の読み方に着目する。——明らかに句形や文型の読み方から外れるものは除外する。
- (2) 残った選択肢は訳してみる。——誤った読み方は、意味の上でも誤りとなる。

**\*解釈問題（まずは逐語訳から。文脈に頼りすぎないこと。）**

- (1) 句形や語句の意味を押さえる。——一字の漢字は熟語にして意味を考えるのがよい。
- (2) 送り仮名にも注意する。——格助詞「ヲ・ニ・ト」や接続助詞「バ・モ」などの用法に注意。

※訓読に従って、一語一語の意味を現代語訳に置き換えることが大切。

**\*説明問題（解答の根拠を探す。）**

- (1) 傍線部を正確に訳してみる。——省略されている主語や目的語が把握できれば、正解はあと一歩。
- (2) 設問の内容（比喩の説明・心情の説明・理由の説明など）を念頭において、解答の根拠となる箇所を探してみる。——登場人物の心情や、その行為の理由などを考える場合は、発言に注目する。

# 目次

問題編

## I部 基本句形確認編

.....

10 (解答……30)

## II部 演習編・基礎

問題編

解答・解説編

### 第1問 「呂氏春秋」

.....

32 .....

### 第2問 「小学」

.....

36 .....

### 第3問 「莊子」

.....

42 .....

### 第4問 「夢溪筆談」

.....

48 .....

### 第5問 「史記」

.....

52 .....

### 第6問 「孟子」

.....

58 .....

### 第7問 「玉泉子」

.....

64 .....

Ⅲ部 演習編・完成

第 8 問	「唐詩選」・「苔園擲余」	70	30
第 9 問	「匡正錄」	76	35
第 10 問	「韓非子」	82	40
第 11 問	「閒微草堂筆記」	88	45
第 12 問	「皇朝史略」・「白氏文集」	96	51
第 13 問	「東軒筆錄」	104	58
第 14 問	「尚綱齋集」	110	63
第 15 問	「三夢記」	116	68
第 16 問	「先哲叢談」	122	72
第 17 問	「詠史詩註」・「詠史詩」	128	78

## 子路問事君。

〔論語〕

幸子路——人名。孔子の弟子。

## 現代語訳

子路は主君に仕えることについて（孔子に）尋ねた。

問 「子路問事君」の返り点と書き下し文との組合せとして最も適当

なものを選べ。

- ① 子路問事君 子路君に事ふるを問ふ
- ② 子路問事君 子路事ふる君に問ふ
- ③ 子路問事君 子路事ふるを君に問ふ
- ④ 子路問事君 子路君を事とするを問ふ
- ⑤ 子路問事君 子路事とするを君に問ふ

## 【解説】

漢文の構造に着目しよう。

漢文には次のような構造がある。

## 漢文の構造

- 1 主語＋述語
- 2 主語＋述語＋目的語
- 3 修飾語＋被修飾語

目的語には「ヲ」「ニ」「ト」「ヨリ」などの送り仮名を補い、上の述語に返って読む。

問題文の構造は次の通りである。

子路（主語）問（述語）事（目的語）君（目的語）

述語「問」の目的語「事・君」は、さらに述語「事」＋目的語「君」の構造になっている。

## 【語句】

○事…仕える。

「こととす」と読む時は「専念する」の意味。

# 第1問

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名、および「」を省いたところがある。（配点 50）

高陽(注1) 応將まさニ為つく室家ラント。匠対(注2)曰こたへてい、「未可也」A。木尚生者B」(注3)。

加塗其上、必將撓(注3)」(注4)。以生為室、今雖善、後將必敗(注5)」高

陽ハク 応ヨウ 曰ハク、緣ヨウ 子ノ 之言ニ 則オ 室ニ 不ズ 敗ズ 也ナリ。木キ 益ニ 枯ル 則ス 勁ニ 塗ニ 益ニ 乾ル

則チ 輕シ。以テ 益ニ 勁キツ 任ゼバ 益ニ 輕キニ、則チ 不ズ 敗レ。匠ニ 人ニ 無ク 辭シテ 而シテ 對フベキ、受ケテ 令ヲ 而シテ 為ル

之コレヲ 室ニ 之ノ 始メテ 成ル 也ナリ。善シ。其ソノ 後ニ 果ハタシテ 敗レタリ。高陽ハ 応ハ 好シ 小ニ 察ツ 而シテ 不ズ 通ゼ

乎ニ 大ニ 理ナリ 也ナリ。

〔呂氏春秋〕による